

『いじめを0にするために』

小城市立三日月中学校 田上 陽花

皆さんは「いじめ」という行為について考えたことはありますか。もちろんいじめはしてはいけないという事は分かっている事と思います。では、いじめは年々減ってきてはいるもののなぜ0にならないのでしょうか。私は自分の経験をもとにいじめがなくなる理由と0にする方法について考えてみました。

まずは実際に私が体験した「いじめ」にあたる行為についてです。

それは朝の部活動前の時のことです。私は先輩が部活動場所の鍵を開けて下さるのを待っていました。その際に同級生のAさんが、「前髪伸びてない？切りに行ったら？」と教えてくれたので私は「分かった。今日お母さんに美容室を予約してもらって切りに行くね。」と答えました。するとAさんとBさんが「今日予約しても今日は切れないでしょ。多分学校の日までに間に合わないから私たちが切ってあげようか。Bさん、はさみとゴミ箱持ってきて。」「そうだね。えっと、ここにはさみはあるから・・・。」と笑いながら話していました。二人は冗談で言っていたと思うので実際には切られませんでした。私はとても怖かったです。

この出来事で私を嫌な思いにさせたAさんとBさんは次のような思いを持ってたと考えます。一つ目はAさんとBさんが私に何か嫌な思いを抱いていたということ、二つ目は冗談だから相手も冗談として受け取ってくれるだろうと考えてい

ということ。三つ目は二人(複数)だから言いやすいということです。

しかし、それがどんな理由だとしても、そして、している方がいじめという認識がなくても相手が嫌な気持ちになればそれは「いじめ」になるのです。私は先程、いじめをする「理由」だと述べましたが、それは「理由」ではなく、ただの勝手な「言い訳」にすぎないのです。このような甘い考えによる冗談がエスカレートして、相手を自殺へと追い込むまでになるのです。

そしていじめを見ている人(傍観者)にも問題があります。いじめと思われる行動を見たらただ見ているのではなく、一人ではなくても複数人で、いじめられている友達の話を聞いてあげたり、している人に注意をしたりしてほしいと思います。それでも無理であったら、勇気を出して一緒に先生などに相談するなどして必ず助けてあげましょう。分かっているのに見ているだけの傍観者はいじめをしているのと同じようなものです。私はこの体験の後、CさんがDさんから変な理屈を言われて暴言を吐かれている場面に遭遇しました。暴言を吐かれていたCさんを見ると、とても悲しそうな表情をしていました。その時、私は近くにいたにも関わらず「それはおかしいんじゃない？」などと注意をすることができませんでした。その後、「大丈夫？」と声をかけることはしたものの、詳しく話を聞いてあげることすらできませんでした。私はその時、前述したいじめをしているのと同じ「傍観者」になってしまったのだと思います。そして、いじめられている人は嫌だと思ったら「嫌」と言ってその場から逃げて必ず人に相談しましょう。自分一人でためこむのは絶対にやめてください。また、全く気づかなかつたという人もいるかもしれませんが、自分のクラスの人がどんな様子なのか、一人でポツンとしている人はいないか、いつも気にかける人になってほしいと思

います。

このようにいじめは「しない、助ける、相談する」三つを守れば必ずなくなると
思います。「助ける」は私は勇気が出ずに失敗したことがあります、意外に難
しく、勇気が必要なことです。しかし、これだけでも意識することできっと変わる
と思います。ただ話を聞いてあげるだけでもいいのです。そして、自分のイライ
ラを人にぶつけるとか、人が困っているのを見て喜ぶとか、自分がターゲットに
ならないように見て見ぬふりをする人が一人でも減っていくといいなと思いま
す。

これからもっといじめ発生件数が減って全員が気持ちよく毎日を送れるように
一緒にがんばりましょう。